

## 令和8年度 八王子市立由木西小学校 学校経営計画

八王子市立由木西小学校 校長 植杉 義久

### 1 はじめに

本校は創立153周年を迎え、地域とともに歩んできた伝統ある学校である。令和7年度は「みんなの“好き”がある学校 ～人・場所・時間～」を掲げ、児童一人ひとりの興味関心を大切にされた教育活動を推進してきた。その結果、多くの児童が学びや人との関わりの中に「好き」を見出す姿が見られた。また、登校率が向上し、自分が参加できる学習には前向きに取り組む児童が増加した。一方で、「好き」をもとに自分の世界を広げたり、他者と関わりの中で新たな価値を生み出したりする経験については、さらなる充実が求められる。

そこで令和8年度は引き続き「みんなの“好き”がある学校」を掲げ、副題を「～好きを見つけよう、広げよう、育てよう～」とする。児童の実態に応じて“好き”との関わりをより明確にしていく。低学年で“好き”を見つけ、その感情に気付くことを大切にする。中学年では多様な“好き”へと広げる。そして高学年では、“好き”をさらに深め“もっと好き”と言えるように育てていく。教育活動や人・地域との関わりを通して、多様な“好き”や新たな“好き”に出会い、自分自身や他者を“好き”になる教育活動を推進する。

#### 《教育目標》

「心ゆたかに たくましい子」の育成方針

- ・よく考え自ら学ぶ子（知）
- ・最後までやりとげる子（体）
- ◎なかよく助け合う子（徳）

学校での集団生活を通して、児童一人ひとりに自分を大切にし、相手を思いやる心や周囲と協力する大切さを実感させ、未来をたくましく生きていく力を育成していく。

### 2 目指す学校像

「みんなの”好き”がある学校 ～好きを見つけよう、広げよう、育てよう～」

- (1) 学びや他者（人・地域）との関りに喜びをもたらす学校
- (2) 児童一人ひとりに寄り添い、主体性と可能性を伸ばせる学校
- (3) 保護者・地域と協働し、信頼される学校

### 3 目指す児童像

「心ゆたかに たくましい子」の育成方針 ○「知・体・徳」のバランスの取れた児童

- ・よく考え自ら学ぶ子（知）・・・主体的に学びへ向かう児童
- ・最後までやりとげる子（体）・・・挑戦を繰り返し、努力できる児童
- ・なかよく助け合う子（徳）・・・他者との関りに喜びを感じられる児童

### 4 目指す教師像

学校作りはチームで行ってこそ実現できる。チーム由木西の教職員として次の7点を心がけて、教育活動を行っていく。

- (1) 教育公務員として教育の諸法規、学習指導要領、都や市教育委員会の法規、法令等を踏まえる。
- (2) 児童の安全と安心を第一に考えた言動（言葉遣い等）を行う。
- (3) 教育の専門家としてのプロ意識をもち、学校教育、学校運営への参画、専門性向上に努める。

- (4) 服務事故を起こさない、起こさせない。
- (5) 家庭、地域と連携していく姿勢を常にもち、丁寧実践していく。
- (6) 由木西小の自然、歴史、地域を誇りに思い、愛する心をもつ。
- (7) 児童一人ひとりを愛し、創意ある教育をめざす。

## 5 学校経営の基本方針（中期的目標）と方策

- (1) なかよく助け合う子どもの育成＜他者との関りに喜びを感じられる児童＞
  - ア 自ら挨拶し、自分を大切にしながら良好な人間関係を築ける児童を、日常的な生活指導を通して育成する。
  - イ 思いやりがあり、お互いを認め合える児童を道徳や行事、異学年交流や学級活動等を通して育成する。
  - ウ 他者と協力して物事を進めることができる児童を、児童会活動や学級活動、行事を通して育成する。
  - エ 社会への関心を持ち、貢献しようとする児童を、児童会活動や地域との連携行事等を通して育成する。
- (2) よく考え自ら学ぶ子どもの育成＜主体的に学びへ向かう児童＞
  - ア 意欲を持ち、粘り強く学習する児童を、児童の実態に応じた効果的な指導の個別化により育成する。
  - イ 自分の考えを持ち、伝え合おうとする児童を、学び合いの充実により育成する。
  - ウ 分かる喜びを味わえる児童を、朝学習や学力調査、本校独自の調査等を活用して育成する。
- (3) 最後までやりとげる子どもの育成＜挑戦を繰り返し、努力できる児童＞
  - ア 心身の健康を保ち忍耐強く行動できる児童を、体育の授業や行事等を通して育成する。
  - イ 役割を自覚し責任ある行動がとれる児童を、学級活動や委員会活動、異学年交流、行事等を通して育成する。
  - ウ まじめさや正義感、規範意識を身に付けた児童を、日々の授業や学級活動、道徳等を通して育成する。
  - エ 社会性を確立し自立した生活を送れる児童を、日々の学校生活やキャリア教育等を通して育成する。

## 6 目指す学校像に向けた今年度の取組目標と具体的な方策（※下線は特に重点を置くもの）

### ◎スローガン「あいさつ アタック あとしまつ 明るい方へ」

「あいさつ」を通して人とのコミュニケーションを円滑にとれるようにする。

「アタック」チャレンジという意味。何事もまずはやってみるという姿勢を大切にする。

「あとしまつ」片付けや振り返りを確実にを行い、目標に対するフィードバックとする。

「明るい方へ」気持ちを常に前向きにもつようにする。

- (1) 豊かな人間関係を築く力や社会性を身に付ける
  - ア 異学年で構成したたてわり班で遊びや「由木西レンジャー」、児童集会を行うことで、下級生は上級生に憧れを、上級生は下級生を良い方へ導く自覚をもてるようにする。
  - イ サッカーの取組や休み時間の外遊びの奨励など、異学年同士のつながりや仲間意識を高め、思いやりの気持ちを育てるようにする。
  - ウ 特別の教科道徳の時間やいのちの日の講話等を通して日頃から人権尊重の意識を高める指導を行う。

- エ 学校林や校地に咲いている木々草花、果樹、学校プールにいる生物との関わりを通し、生命尊重の精神を養う
- オ 校内ギャラリー等で子ども達の図工作品を鑑賞する活動を通して、豊かな感性を育み、お互いの良さを認め合おうとする心情を育てる。
- カ 音楽会を行い、集団で取り組む良さや協力して取り組む喜びを実感するとともに、図画工作の作品の展示や音楽での学びを発表する機会の設定し、自己有用感を育む。
- キ 地域団体ガーデニングラバーズ等との交流を通して、児童が愛校心や環境に関する意識を高めるようにする。
- ク 畑見学や地層見学、国際理解学習や戦跡見学など地域の特色を生かした学習を進め、郷土に対する理解と愛着を深める。
- ケ 鐘水中学校と連携し、プレ中学生プロジェクトの取組や部活動体験、合唱祭りハーサル見学や授業参観等を通して、未来への希望と憧れをもち意欲的に生活する心情を高める。
- コ 鐘水小学校とは小小連携の取組として、学校林観察やクラブ交流、学校行事への参加などを通して、思いやりやお互いを理解する心情を育てる。
- サ 保幼小連携の日を活用しながら、近隣幼稚園や保育園と連携し、幼児期と児童が関わることで思いやりや相手の立場になって考えること、年上としての自覚や振舞い方などを考え行動に移せるようにする。

(2) 学ぶ喜びや楽しみを感じ、主体的に学習へ向かう姿勢を身に付ける

- ア 日々の授業や校内研究を通して、児童の実態に応じた指導の個別化を図り、学ぶ意欲の持続向上を図れるようにする。
- イ 算数科を中心に学習の中で目標達成の手立てとして話し合い活動を奨励し、論理的に考える良さや学ぶ楽しさを味わわせる。
- ウ 生活科や総合的な学習の時間、「由木西レンジャー」などで、体験を通した学びの楽しさを実感させる。
- エ 本校独自の「ゆぎにしっ子ミニマム」を定期的効果的に実施し、基礎学力の定着度を測り、学びの定着を図る。
- オ 学期に2回程度「ぐんぐんタイム」を実施し、児童自らが設定した学習目標と内容に取り組み自己調整力を養う。
- カ 朝学習の時間は、読書や繰り返し学習といった内容を児童の実態に合わせて実施する。
- キ 視野を広げ、語彙力を増やし、想像力を伸ばすため、地域の方の読み聞かせや図書委員会との連携を図りながら読書活動を推進する。

(3) 心理的安全性のある集団づくりにより、一人ひとりの居場所をつくる

- ア 学校生活の中で自分の“好き”を見つける活動を通して、自分を知り、自分の良さを理解し、前向きに学校生活を送れるようにする。
- イ 委員会活動を通年（4年生は半期）とし、学校をより良くするための常時活動や計画的・臨時活動を考えたり、実行に移すことを通して主体性と責任感を養う。
- ウ 不登校児童や気持ちを整えたい児童が「ほっとルーム」に居場所をつくれるように、担任、登校支援コーディネーター、校内別室支援員が連携を図り、支援体制を構築する。
- エ スクールカウンセラーによる全員面接を年2回実施し、児童の実態把握に努め、迅速な対応に生かす。

- オ 月1回のスクールソーシャルワーカーを交えた特別支援校内委員会や年2回の児童理解の会を通し、児童や家庭の状況、特別支援教室での様子やスクールカウンセラーからの報告等の情報を共有し、今後の指導に生かしていく。
- カ 特別支援教室「おおり教室」について、間違った認識をもたないよう年度初めに保護者や児童に理解教育を実施する。保護者には年度当初の保護者会時に理解啓発ビデオを上映し、児童には1年生を対象に映像資料を使った説明を4月に、体験授業を7月に実施する。
- キ 月1回程度だけのこの会を開き、保護者の子育ての相談や本校の教育活動に関する疑問質問に答えることで特別支援教育の理解を図る。
- ク 毎週火曜日の生活指導朝会や毎週水曜日に開催される「いじめ対策委員会」、年2回行う児童理解の会で情報を共有し、組織的な対応を行う。
- ケ ふれあいアンケートやQ-Uの分析や活用、「子ども見守りシート」を通して常に家庭からの情報も共有できるようにする。
- コ 休み時間は、教員が学校サポーターや学年補佐と連携を図りながら校庭、校内に分かれ児童の様子を見守るようにする。
- サ 日常の安全指導の充実を図ると共に、総合的な学習の時間における地域安全マップ作りや避難訓練、セーフティ教室や薬物乱用防止教室、自転車安全運転教室等において、自分の身は自分で守る力を育てる。
- シ 避難訓練の内容を火災や地震、火災からの地震や不審者対応、発生時刻を午前午後や休み時間にする、煙、起震車、消火器の体験等、より実際の災害に近い設定で訓練する。
- ス 110番の家を訪問する機会を作り、実際に駆け込んだり、家の人の話を伺ったりして緊急時に行動へ移せる訓練をする。

#### (4) 健全で向上心をもった組織の構築

- ア 教職員に対して、体罰や不適切な指導、交通事故、個人情報漏洩等の服務事故を防止するために、学期ごとの研修や職員会議、管理職の定例連絡会後において周知を行うと共に、報告・連絡・相談の徹底を行う。
- イ 年2回の研究授業と協議会を通し、組織的に児童が自ら学ぶ姿勢の向上を図る。
- ウ 特定の教科を中心とした仮説検証型の研究を推進し、研究授業での成果を他教科へ実践し、効果を高める。
- エ 教員の専門性を生かした交換授業などを行い、授業のおもしろさや楽しさを実感させる。
- オ 保護者が教育活動を支援する登校の見守りや読み聞かせ、図書室整備や災害避難用備蓄品の管理、親睦行事などに対し可能な限り協力をする。
- カ 教職員として地域行事に可能な限り参加し、保護者・地域の方と共に語り、共に汗を流しあえる関係を構築する。
- キ ホームページ上での学校・学年だよりや児童の様子を紹介することで、本校の教育活動への周知と理解を図る。
- ク 由木西レンジャーでの門松づくりにおける、竹の切り出しや週休日での防災訓練の計画、校庭の環境整備を行う。
- ケ 小中一貫グループ校である鑓水小学校、鑓水中学校と連携し、プレ中学生プロジェクトの取組や部活動体験、合唱祭りハーサル見学や授業参観等、児童・生徒の情報共有等の取組を推進する。

コ 年2回の保幼小連携の日を活用しながら、近隣幼稚園や保育園と連携し、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続できるよう、情報の共有化を図る。

サ 学校林活用プロジェクトを発足し、プロジェクトリーダーを中心として現行の「学校林の観察」「たけのこ堀」「門松づくり」「かたくりの森の観察」以外の活用方法を「体験」「継続」をキーワードにしながら検討し、より児童が意欲的に取り組む内容にしていく。